

南半球便り（その22）：タリスマン・セイバー

7月21日

「タリスマン・セイバー」とは、「魔除けの軍刀」を意味します。軍関係者の間では、豪州と米国との間で行われる豪州最大級の豪米共同軍事演習を指すという共通の認識があります。



海岸に上陸する豪米部隊（2019年）（出典：豪国防省）

1. 本年の演習

この演習は、2005年から隔年で行われてきました。今年で、第9回目の開催です。コロナ禍の影響で前回よりも規模を縮小したものの、人員約17,000名に加えて、艦艇約20隻、航空機100機以上、多数の水陸両用車などが参加して、7月14日から8月1日まで豪州クイーンズランド州東岸の演習場で島嶼防衛に係る戦術技量を訓練します。



海岸に上陸する陸上自衛隊員（2019年）（出典：豪国防省）

2. 自衛隊の参加

日本の自衛隊は、この演習に2015年から参加しています。タリスマン・セイバー演習は陸軍種と海軍種が協同で着上陸作戦を行う絶好の訓練機会であり、自衛隊の島嶼防衛に係る戦術技量の向上を図るとともに、「自由で開かれたインド太平洋」を維持・強化し、関係国間の連隊や結束を示す意義があると判断されているからです。

今年は、陸自の水陸機動団第2水陸機動連隊と海自の護衛艦「まきなみ」が参加します。



シドニー湾に入港中の護衛艦「まきなみ」(2021年)(出典:海上自衛隊)

3. 史上最大の参加国

2005年の開催以降、参加国は次第に増えています。今年は、豪、米、日に加えて、英、加、NZ、韓国(初参加)が演習に参加したほか、オブザーバー国としてインド、インドネシア、フランス、ドイツが加わりました。

7月14日にクイーンズランド州ブリスベン近郊のアンバリー空軍基地で行われた開会式には、ダットン国防大臣やキャンベル豪州国防軍司令官に加えて、参加国すべての大使が参列し、壮観でした。

私も他国の大使と同様に、キャンベラから豪州軍手配のC130輸送機に揺られて日帰りでクイーンズランドに駆けつけた次第です。



開会式参加のため搭乗した豪空軍輸送機

4. タイムリーな演習

先日の日豪2プラス2会談（南半球便り（その19）：「2プラス2」参照）で確認されたとおり、今まさに台湾海峡を初めとする東シナ海や南シナ海の現状は緊張を増しています。そうした中で、インド太平洋で大きな役割を果たし得る11カ国による共同演習には、実に大きな意義があります。



第9回日豪外務・防衛閣僚協議「2+2」（出典：防衛省）

我が国として、「自由で開かれた太平洋」を共有する国々との連携・結束を確認する一方で、自衛隊の島嶼防衛力の維持・強化、尖閣諸島を初めとする我が国領土の防衛にかける決意を明らかにする大きな意義があります。

地域情勢が不透明感を増し、台湾海峡の平和と安定の重要性があらためて強く認識されている昨今であるからこそ、このような共同演習を通じて、「抑止力」を適時適切に機能させることが重要なのです。



輸送艦「くにさき」搭載のエアクッション艇（2019年）（出典：豪国防省）

5. 最後に

このような場にかけて諸外国の軍事専門家の意見を聞くたびに嬉しく思うのは、我々が自衛隊の練度と精強ぶりが高く評価されていることです。長年実戦での戦闘経験を有してこなかっただけに、こうした地道な訓練や演習を通じて練度を高く維持することの重要性は、誰よりも自衛隊の関係者こそが高く意識されている模様です。同胞として心強く、いっそうの活躍を祈念、応援したい気持ちになります。

山上信吾